

公認会計士による学校経営

丸木 公介

学校法人松山東雲学園理事長

私はもともと起業を目指し、大学進学ではなく就職の道を選んだが、約3カ月で挫折。社会人になるまでの猶予期間として、大学進学を考え、入学したのが日本大学商学部経営学科だった。経営学科を選んだのはやはり、起業を意識してのことである。

大学在学中に多くの本を読み沢山の人と出会う。そうした経験のなかで、その後の人生の支えとなるようなライセンスを取っておくのがよいと考えるようになり、公認会計士を目指すことにした。多くの時間を要したが、親の協力もあり無事合格することができた。合格後は東京の監査法人で修業を積み、ふるさとの四国・松山で念願の独立開業を果たした。

開業してまもなく、現在理事長をしている学校法人松山東雲学園の会計監査人（公認会計士）の先生から「会計監査の補助者になってほしい」とご依頼をいただいた。それが本法人との縁を結びきっかけとなる。しかし、このときはまさかのちに本法人の理事長になるとは夢にも思っ

ていなかった。理事長就任前の10年間、母校である学校法人新田学園の理事長職を務めてはいたが、もともと会計畑の人間である。縁は奇なものだ。

長年、会計監査人として本法人と関わりがあったため、経営状態は十分把握していた。また少子化等の影響でその運営については一筋縄ではいかないことも分かっていた。それでも理事長職を引き受けることにした。四国唯一の女子大学・短期大学を有し、さらに中学校・高校・認定こども園まである学校法人の経営を引き受けるのはそれなりに覚悟があることであったが、困難だからこそやりがいがあると思えたのだ。

私自身会計事務所を40年近く経営して、多くの企業を見てきた。最初はうまくいっていたにもかかわらず放漫経営になりうまくいかなくなってしまう企業、環境は厳しくとも何とか手堅くしっかり経営している企業など様々だ。

実際に理事長に就任して1年6カ月が経ち、相変わらず学校法人の運営は大変厳しいのだが、経営陣の一員になったことで、以前にも増して

ずいそう Occasional thoughts



女性のライフデザインをサポートする学びの充実は、本学園の強みの一つ。

学園の良い面に気づくことができた。今後はそれを活かしながら経営していけばよいのではないかと考えている。

そもそも公認会計士は、決算書の数字は読んでも学校経営のプロではない。「こうすれば大丈夫」という絶対的な運営方針は持ち合わせていないし、教育に関しては、全くの素人である。

このように限られた能力しか持ち合わせていない者が、どのように学校法人のトップとして経営をしていけばよいのか。本法人の理事長となり2年目。教職員はもとより学生・生徒・同窓生・地域の方々・その他すべての関係者の力をお借りして、より良い教育と、それが可能となる財務基盤を確立する方向にベクトルを合わせるよう舵取りをしていく。それが私の仕事である、という考えに至った。そのためには、今よりもっと多くの人の声に耳を傾けることが重要であると思っている。



認定こども園の交流スペース。園児の元気な声に満ち溢れ、地域住民との貴重な交流の場に。